

能面

魚井 遊羽

手に小さき欠伸包めり夏の午  
夕立ちや祈りは雨音の中へ  
何告げに生まれ出づるか白百合よ  
空蟬や過去忘れゆく身の軽さ  
女五人月下美人を訪ねけり  
雨やむや吾を迎ふる蜻蛉の目  
秋思ふと長く踏切閉ぢられて  
キャンパスに佇む三人秋の虹  
コスモスやパレットの色とりどりに  
電線の連なりゆくや秋夕焼  
灯火親し音するものをオフにして  
人声の時折恋し夜長し  
地球にも吾にも歴史あり月夜  
麓より峰を仰ぐや秋澄めり  
山に雨降る薄闇や秋遍路  
猪や二人住まひの山の家  
蜻蛉来る襖からくり横切りて  
早弾きの三味線奏者秋の風  
人集ふための一樹や銀杏散る  
後の世の月如何ならむ能面よ